

東京都23区における現存する公衆浴場と廃業済の公衆浴場の比較
～立地的側面から見た公衆浴場の変遷～

Comparison of existing public baths and closed public baths in the 23 wards of Tokyo
～Transition of public baths from the viewpoint of location～

○上妻遼介¹, 山崎晋²

Ryosuke Kozuma¹, Shin Yamazaki²

After the war, the environment surrounding public baths changed rapidly along with changes in the economy and society, and the number of public baths in Tokyo was steadily decreasing at an average annual rate of 40 from 1965 to 2005.

However, public baths are one of the traditional cultures of Japan with a long history, and the current situation is regrettable that the demand is decreasing even now that the demand is decreasing due to the installation of bathrooms in each household.

Therefore, the purpose of this study is to focus on the location of public baths in the 23 wards of Tokyo, and to clarify the trends and characteristics from the viewpoint of location by comparing existing public baths with closed public baths.

1. 研究の背景と目的

戦後、経済や社会の変容とともに公衆浴場を取り巻く環境は目まぐるしく変化し、東京都内の公衆浴場の数は1965年～2005年までの間に年平均40軒のペースで減少の一途を辿っている。

しかし、公衆浴場は長い歴史を持つ日本の伝統的な文化の一つであり、各家庭に浴室が設けられ需要が減少した今でも減りゆく現状は惜しまれつつある。

そこで本研究では東京都23区内の公衆浴場の立地状況に着目し、現存する公衆浴場と廃業した公衆浴場を比較することで立地的側面からみた傾向や特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 調査概要

まず、東京都23区の公衆浴場ホームページや銭湯情報サイトから各公衆浴場及び廃業済みの公衆浴場の軒数を区別に調査する。次に、多くの公衆浴場が存続してきた上位5区と戦後著しく廃業した下位5区の公衆浴場について基本情報を抽出した後、各公衆浴場の立地状況を調査し、最寄り駅からのアクセスの観点から現存と廃業済みのものについて比較・考察を行う。

3. 結果と考察

1) 23区内の銭湯の存続状況

銭湯の存続状況を23区別にみると、最も高いのは荒川区の19.5%であり、続いて板橋区18.4%、江戸川区17.6%、台東区17.4%、北区17.3%であった (Table1-d)。一方、廃業した割合が高く、現存率が低いのは港区の5.3%であり、文京区7.8%、千代田区8.3%、中央区11.6%、5杉並区13.5%であった。

現存率の低い公衆浴場は東京都23区の中でも比較的都心に位置し都市開発が盛んな地域であるのに対

し、現存率が高いものに関しては都心部から離れた区であることが分かる。

都心に立地している公衆浴場の方が郊外に立地しているものに比べて交通網が発達しているので比較的アクセスがしやすく、廃業しにくいとの見方もできるが、正反対の結果となった。

Table1 Survival status of public baths in the 23 wards

	a	b	c	d	e	f	g	h
	現存(軒)	廃業(軒)	合計(軒)	現存率 (%)	面積(km ²)	軒数/面積(km ²)	人口(人)	軒数/人口(1万人)
千代田区	3	45	48	6.3	11.66	0.26	61,420	0.488
中央区	8	61	69	11.6	10.21	0.78	157,484	0.508
港区	4	71	75	5.3	20.37	0.20	253,940	0.158
新宿区	20	107	127	15.7	18.22	1.10	343,494	0.582
文京区	4	73	77	5.2	11.29	0.35	227,224	0.176
台東区	24	114	138	17.4	10.11	2.37	203,219	1.181
墨田区	18	116	134	13.4	13.77	1.31	264,515	0.680
江東区	21	109	130	16.2	40.16	0.52	510,692	0.411
品川区	22	124	146	15.1	22.84	0.96	398,732	0.552
目黒区	10	66	76	13.2	14.67	0.68	283,153	0.353
大田区	35	194	129	15.3	60.83	0.58	728,437	0.480
世田谷区	25	155	180	13.9	58.05	0.43	921,708	0.271
渋谷区	11	68	79	13.9	15.11	0.73	229,994	0.478
中野区	20	99	119	16.8	15.59	1.28	335,813	0.596
杉並区	19	122	141	13.5	34.06	0.56	575,691	0.330
豊島区	17	100	117	14.5	13.01	1.31	297,946	0.571
北区	24	126	150	16.0	20.61	1.16	348,274	0.689
荒川区	22	96	118	18.6	10.16	2.17	216,098	1.018
板橋区	29	129	158	18.4	32.22	0.90	573,966	0.505
練馬区	21	95	116	18.1	48.08	0.44	731,360	0.287
足立区	29	159	188	15.4	53.25	0.54	677,536	0.428
葛飾区	24	160	184	13.0	34.80	0.69	450,815	0.532
江戸川区	32	150	182	17.6	49.90	0.64	690,614	0.463
計	456	2539	2981		619.00		9,482,125	0.481
平均	19.8	109.8	129.6	15.3%	26.90	0.74		

■ : 現存率の高い3区 ■ : 現存率の低い3区 人口数: 2018年3月1日時点

1 : 日大理工・学部・まち 2 : 日大理工・教員・まち

2) 単位面積当たりの公衆浴場数

Table1-fは、東京都23区の単位面積当たりの公衆浴場の数の調査結果である。

大田区や江戸川区のように公衆浴場の絶対数は多いが区域面積が大きいので、単位面積当たりの公衆浴場の数は小さくなっていることが分かる。

最も高い数値である2.37を示した台東区は、公衆浴場の数は24と平均的な数値だが、区域面積が最も小さくなっているため単位面積あたりの公衆浴場の数は大きくなっている。

この表からは、都心3区(千代田区、中央区、港区)を中心とした都心部での数値が低くなっている。

3) 公衆浴場の立地する駅からのアクセス時間

23区内の存続状況の調査から、Google mapsを用いて現存率の高い3区及び低い3区について最寄りの駅から徒歩でのアクセス時間の調査を行った。

現存率の低い区では、現存率の高い区と比べて、最寄り駅からの平均時間は短くさらに現存よりも廃業の方がアクセス時間が短い結果であった (Table2)。

次にアクセス時間を5分ごとに区切り、それぞれの区で最寄り駅からのアクセス時間が存続率にどのように関係しているのかを考察する。

Table3より、下位3区は徒歩で16分以上かかる銭湯がいずれの区も0軒であったことに対し、Table4より、上位3区は板橋区では数件、江戸川区では現存で9軒、廃業した銭湯では約3割の44軒見られた。現存率の上位3区については下位3区に比べて駅から離れた場所に立地する傾向がみられた。

現存率の低い3区については徒歩で16分以上かかる銭湯は1軒も見られず、上位3区と比べて駅から徒歩5分圏内の公衆浴場の廃業率が高くなっている。全体的に現存の銭湯、廃業した銭湯どちらも駅から近い位置に立地していることが分かる。これは、公衆浴場の廃業事由として単純に交通アクセスが悪いというわけではなく、駅周辺地域は商業利用を促進させることでより収益を見込める可能性を秘めていることから開発が進み、存続が困難になったことも原因の一つとして考えられる。

4. まとめ

本研究では公衆浴場の立地状況に着目し、現存する銭湯と廃業した銭湯を比較した。当初は最寄り駅からの距離が遠いほど利用者のアクセスが困難なため廃業しやすいと予想していたが、より廃業しやすいのは駅からの距離が近い場所であることが明らかとなった。

5. 参考文献

[1] 赤猫丸平：「赤猫丸平の片付かない部屋」東京23区の銭湯の変遷 (最終閲覧日 2021.8.21)

<https://acanekomaruhei.net/>

[2] 西橋乃理子・葉袋奈美子：「立地場所と営業形態からみた東京23区における銭湯の特性」日本女子大学紀要 家政学部第67号, 2020

Table2 Access average time from the nearest station to the public bathhouse

区	最寄駅からの平均時間(分)		区	最寄駅からの平均時間(分)	
	現存/廃業			現存/廃業	
荒川区	現存	4.55	千代田区	現存	3.67
	廃業	5.05		廃業	3.18
板橋区	現存	6.93	文京区	現存	6
	廃業	7.43		廃業	5.28
練馬区	現存	5.95	港区	現存	6
	廃業	7.54		廃業	4.96
計	現存	5.81	計	現存	5.22
	廃業	6.67		廃業	4.47

Table3 Access time from the station where the public bath is located (top3 existing rates)

区	最寄り駅からの徒歩時間	現存		廃業		合計	
		施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
荒川区	0~5分	15	20.0%	60	80.0%	75	100.0%
	6~10分	7	21.2%	26	78.8%	33	100.0%
	11分~15分	0	0.0%	9	100.0%	9	100.0%
	16分以上	0		0		0	
	計	22	18.8%	95	81.2%	117	100.0%
板橋区	0~5分	11	19.0%	47	81.0%	58	100.0%
	6分~10分	14	20.0%	56	80.0%	70	100.0%
	11分~15分	4	14.8%	24	88.9%	27	100.0%
	16分以上	0	0.0%	2	100.0%	2	100.0%
	計	28	17.8%	129	82.2%	157	100.0%
練馬区	0~5分	13	26.5%	36	73.5%	49	100.0%
	6分~10分	6	16.2%	31	83.8%	37	100.0%
	11分~15分	2	7.7%	24	92.3%	26	100.0%
	16分以上	0	0.0%	3	100.0%	3	100.0%
	計	21	18.3%	94	81.7%	115	100.0%

Table4 Access time from the station where the public bath is located (3th lowest existing rates)

区	最寄り駅からの徒歩時間	現存		廃業		合計	
		施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
千代田区	0~5分	3	7.1%	39	92.9%	42	100.0%
	6分~10分	0	0.0%	5	100.0%	5	100.0%
	11分~15分	0		0		0	
	16分以上	0		0		0	
	計	3	6.4%	44	93.6%	47	100.0%
文京区	0~5分	2	4.5%	42	95.5%	44	100.0%
	6分~10分	2	7.4%	25	92.6%	27	100.0%
	11分~15分	0	0.0%	4	100.0%	4	100.0%
	16分以上	0		0		0	
	計	4	5.3%	71	94.7%	75	100.0%
港区	0~5分	3	6.8%	41	93.2%	44	100.0%
	6分~10分	0	0.0%	26	100.0%	26	100.0%
	11分~15分	1	20.0%	4	80.0%	5	100.0%
	16分以上	0		0		0	
	計	4	5.3%	71	94.7%	75	100.0%